

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	アカデミック・スタンダード小委員会	主 査 名：吉野博 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (企画刊行運営委員会)	委員長名：加藤信介 主 査 名：吉野 博
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築および都市の環境工学に関する性能項目、性能基準(規準) 検証方法の学会としての基本姿勢を研究者や実務家、各種団体、行政に対して明示する。 ・ 新しい学術的成果や技術的展開をアカデミック・スタンダードとして示す。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無(2006 年度)	
	吉野 博(東北大学) 岩前 篤(近畿大学) 北原 博幸(トータルシステム研究所) 池田 耕一(国立保健医療科学院) 木村 健一(フジタ) 佐久間 哲哉(東京大学) 関 五郎(日建設計) 土川 忠浩(兵庫県立大学) 中島 康孝(早稲田大学) 永峯 章(東洋大学) 平手 小太郎(東京大学) 福地 智子(永田音響設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	参加している運営委員会： 音環境運営委員会(音環境アカデミック・スタンダード WG) 光環境運営委員会(光環境性能・基準小委員会) 熱環境運営委員会(温熱環境測定法学会規準解説書 WG、室内温熱環境設計法学会規準解説書作成 WG、温熱心理生理測定法学会規準解説書) 空気環境運営委員会(TVOC による室内空気環境に関するアカデミック・スタンダード検討 WG、化学物質の設計・施工に関するアカデミック・スタンダード検討 WG、アセトアルデヒドに関するアカデミック・スタンダード検討 WG、トルエンに関する学会基準作成 WG、室内微生物制御 WG、アスベストに関する学会基準作成 WG、室内の臭気測定法検討 WG) 水環境運営委員会(廃棄物・ごみ処理設備環境評価小委員会) 建築設備運営委員会(設備管理指針検討小委員会、設備設計図書標準化検討小委員会) 電磁環境運営委員会(電磁環境/電磁環境技術基準小委員会) 企画刊行運営委員会：各運営委員会から刊行段階で移行(学校施設の音環境保全規準解説刊行小委員会)	
2006 年度予算	900,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s8/default.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 室内温熱環境測定法学会規準・同解説(2007 年 3 月脱稿予定) 2. 設備管理ガイドライン(2007 年 3 月脱稿予定)
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 設備管理ガイドラインに関するパブリック・コメント 2. 温熱環境測定法学会規準解説書に関するパブリック・コメント
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. パブコメを得たアカスタ 2 件、内部査読に達したアカスタ 1 件、体裁に整えた案(CD)のアカスタ 4 件(総則を含む)である。 2. 目標 10 件(湿気物性学会規準・同解説については昨年度末、既に完了済みのため目標から除外)に対して上記 7 件が達成
委員会活動の問題点・課題	1. 特に無し

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>目標のパブリックコメントを得る段階までに進捗させることに対し、 設備管理ガイドライン 温熱環境測定法学的規準解説書 の2つで実現できている。一方、パブコメ直前の内部査読を実施しているのが、 学校施設の音環境保全規準解説書 である。また、以下の3つのアカデミック・スタンダードについてはアカスタの 体裁に整えた作成担当者による案(CD)の作成作業を実施している。 TVOCによる室内空気環境に関するアカデミック・スタンダード(仮) アセトアルデヒドに関するアカデミック・スタンダード(仮) トルエンに関するアカデミック・スタンダード(仮) さらに、今年度は今までの懸案事項となっていた 環境基準総則 について、CDにおける内容を確定するとともに、今まで明確ではなかったアカ スタ作成の各段階の手続きなどについてフローチャートにより明確化した。 これら7つのアカスタで、活動計画の目標をほぼ達成できたと考える。 なお、これ以外のアカスタについて、 廃棄物・ごみ処理設備環境評価 は、今年度のアカスタ小委員会での審議を経て目次も確定し、アカスタを意識し た情報を含む作成担当者による案(WD)の作成段階まで進捗した。 室内温熱環境設計法学的規準・同解説 温熱心理生理測定法学的規準・同解説 については、進捗が遅れ気味であり、昨年同様、アカスタを意識した情報を含む 作成担当者による案(WD)の作成作業を継続している。 また、新たに下記5つのアカスタについて、WDの作成作業を開始した。 化学物質の設計・施工に関するアカデミック・スタンダード(仮) 設備設計図書に関する学会規準 室内微生物制御マニュアル(仮) アスベストに関する学会基準(仮) 室内の臭気測定法に関する学会基準(仮)</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。